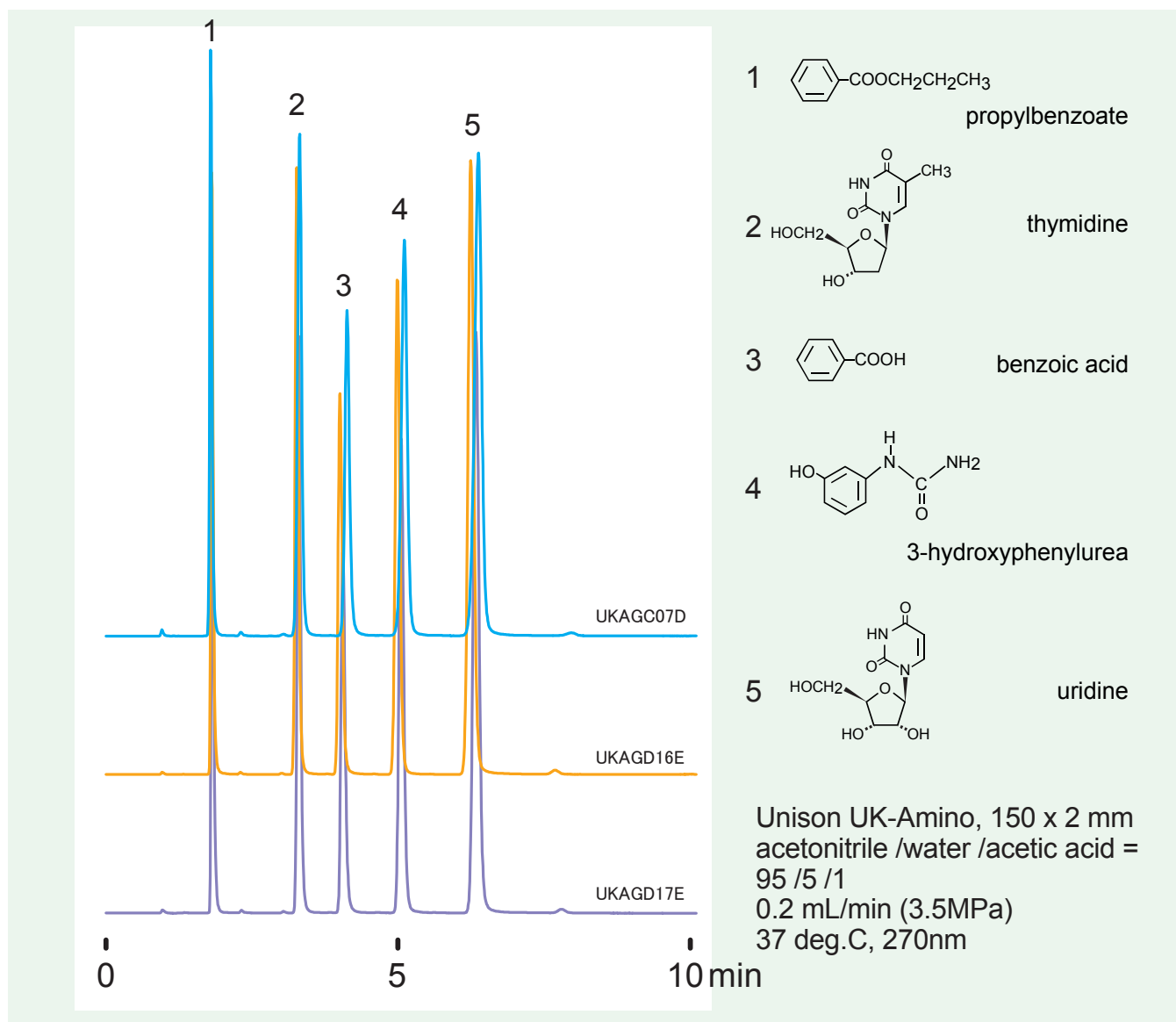


UK-Aminoのバッチ間再現性



Unison UK-Amino固定相に関するバッチ間の再現性を示しました。

比較的極性の低いpropylbenzoate, 高極性の4-hydroxyphenylurea, 塩基度の高いデオキシリボヌクレオシドthymidine(pKa=9.8)やヌクレオシドuridine(pKa=9.2), そして酸性化合物であるbenzoic acid (pKa=4.2)という, それぞれ性質の異なる化合物を, アニオン交換と順相の両モードを用いて分離しました。その結果, 溶質-固定相間にはたらくイオンの相互作用や静電的相互作用は, 充てん剤バッチ間で良好な再現性を示していました。

一般にアミノプロピル型固定相は順相モードだけでなく, アニオン交換モードも有しているため, 相互作用が複雑になり, 溶質の保持や分離の再現性が得にくい難点があります。この点Unison UK-Aminoは, 従来とはまったく異なる固定相設計により高い再現性を獲得しています。